



筑波海軍航空隊の号令台と旧司令部庁舎(記念館) ↑

## 霞ヶ浦(その8) ～戦時下の霞ヶ浦海軍航空隊～

1937(昭和12)年に日中戦争が勃発すると、必要とされる航空機搭乗員の数が急増しました。そのため教育訓練組織を増強することになり、各地に練習航空隊が開設されていきます。1938(昭和13)年には、この練習航空隊を統括する練習連合航空隊が編成され、霞ヶ浦海軍航空隊には第11練習連合航空隊の司令部が設置され、1939(昭和14)年末には、第11練習連合航空隊の指揮下に霞ヶ浦・筑波・鹿島・谷田部・百里原・鈴鹿の6航空隊が設けられていました。

### 霞ヶ浦海軍航空隊

(所在地:阿見村、現稲敷郡阿見町)

霞ヶ浦海軍航空隊では、創隊以来「操縦学生」、「飛行練習生」に対する基礎操縦教育が主任務とされてきましたが、1939年(昭和14)年3月1日、横須賀海軍航空隊で行われていた海軍飛行予科練習生教育も霞ヶ浦海軍航空隊に移し、「飛行予科練習部(予科練)」が設置されました。その後、「飛行予科練習部」は、鹿島海軍航空隊の開設によって遊休化していた阿見村青宿の霞ヶ浦海軍航空隊水上機基地の跡地(現陸上自衛隊武器学校)に移され、1940(昭和15)年11月15日、「飛行予科練習部」は、第11練習連合航空隊のもとに、土浦海軍航空隊として独立、開隊しました。さらに翌年10月1日には、戦闘機や練習機の製作・修理・補給を担当する第1海軍航空廠が霞ヶ浦海軍航空隊の隣接地(現陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地)に設置されています。

同年12月8日にアジア太平洋戦争が勃発すると、搭乗員の損耗が予想以上に激しくなりました。そのため搭乗員を急速かつ短期間に養成する必要に迫られ、全国各地に搭乗員養成のための練習航空隊とこれを統括する練習連合航空隊が次々と設置され、1944(昭和19)年までに6箇所の練習連合航空隊と延べ56の練習航空隊が設けられています。霞ヶ浦海軍航空隊には、以前と同様に第11練習連合航空隊司令部が設置され、霞ヶ浦・筑波・鹿島・谷田部・百里原・北浦等、計13の航空隊(操縦基礎教育を担当)を統括していました。また土浦海軍航空隊には第19練習連合航空隊の司令部が設置され、土浦をはじめ計13の練習航空隊(予科練習生教育を担当)を指

### 揮下に置いていました。

1945(昭和20)年に入るとさらに戦局が悪化、米軍との本土決戦に備えて、搭乗員教育組織を戦闘組織に変更し、霞ヶ浦海軍航空隊は第11練習連合航空隊に所属したまま第10航空艦隊(司令部は霞ヶ浦航空隊内に置かれました)の指揮下に入りしました。第10航空艦隊司令部は、指揮下にある連合航空隊(霞ヶ浦・筑波・谷田部・百里原・鹿島等16の航空隊)に特別攻撃隊の編成と特攻訓練の開始を発令しました。

3月18日、九州沖航空戦が開始され、3月20日、第10航空艦隊司令部は、第11、第12練習連合航空隊に対し、実用機を保有する航空隊司令は、可動機全機を率いて九州の定められた基地に進出し、第3、第5航空艦隊の指揮を受けるように指示しました。谷田部、筑波、鹿島、北浦、百里原、名古屋などにあった第10航空艦隊隷下の航空隊は、九州、鹿屋、指宿、国分、串良などの基地へ、次々と移動していきました。

4月6日、連合艦隊は、「菊水1号作戦」を発動し、海軍機40機、陸軍機130機で沖縄周辺の艦船および機動部隊を攻撃しました。「菊水作戦」は、6月21日の第10号まで続けられ、その中で第10航空艦隊が編成した特攻出撃機は645機、そのうち未帰還機は453機748名でした。茨城県内にあった海軍の部隊から「菊水作戦」の特攻隊に加わった航空機や搭乗員の出撃状況は次のとおりです。

- 筑波航空隊 零戦55機55名 発進地:鹿屋
- 谷田部航空隊 零戦55機55名 発進地:鹿屋
- 北浦航空隊 零式水上機1機3名
- 94式水上偵察機7機15名 発進地:指宿
- 94式水上偵察機1機3名
- 鹿島航空隊 零式水上機1機3名
- 94式水上偵察機1機2名 発進地:指宿

### 百里原航空隊

- 99式艦上爆撃機20機40名 発進地:国分
- 97式艦上攻撃機11機22名 発進地:串良

霞ヶ浦海軍航空隊は、戦闘参加のための即応体制を維持しつつ、搭乗員養成も実施していましたが、沖縄作戦の特攻攻撃に専念するため、1945年3月には教育訓練の中断を余儀なくされています。しかし4月17日、沖縄作戦のさなか、航空戦力を本土決戦に充当するため、新規搭乗員教育の再開が命令され、3月1日の特攻隊編成にもれた全国の練習航空隊の飛行予備学生、飛行練習生を霞ヶ浦航空隊に集め、機種別に担当航空隊を定め、米軍の本土上陸に対する各種の特攻訓練が実施されましたが、8月15日に終戦を迎えました。

現在、この広大な跡地は陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地、東京医科大学病院、茨城大学農学部、大手農機具メーカーや醸造会社など多くの企業の敷地として利用されています。

### 筑波海軍航空隊

(所在地:宍戸町、現笠間市旭町)

1934(昭和9)年6月22日に霞ヶ浦海軍航空隊友部分遣隊として開隊、1938(昭和13)年12月15日に独立、陸上機操縦教育を担当。1944(昭和19)年3月15日に実用機課程の練習航空隊となり、11月19日付けで特攻隊の編成が命じられました。25人の隊員がフィリピンの第201航空隊に転出し、12月から翌年1月にかけて金剛隊として出撃、12名が特攻で、6名が空戦で、1名が陸戦で戦死しています。

1945(昭和20)年1月に陸海軍が全軍特攻化を決定したのを受けて、2月20日

に神風特別攻撃隊筑波隊64人（8機×8隊）が編成され、特攻訓練が行われ、訓練は2ヶ月間で、零戦と零練戦（零戦を練習用に改造した機体）が使用されました。特攻隊員は各隊長が中尉で、小隊長、隊員は全員が少尉で編成され、隊員のほとんどが20歳代前半の予備学生出身の予備士官でした。4月20日には練習航空隊の指定が取り消され、第3航空隊に編入され、実戦配備、戦力化されました。現在は一部が茨城県立友部病院の敷地になっており、筑波海軍航空隊本部は茨城県立友部病院として利用されています。映画「永遠のゼロ」のロケ地にもなっています。

### 鹿島海軍航空隊

（所在地：安中村、現稲敷郡美浦村大山）

1937（昭和12）年頃に設置工事が始まり、翌年5月11日に霞ヶ浦航空隊安中水上隊となり、12月15日に鹿島海軍航空隊として開隊。水上機操縦教育を担当。



↑ 鹿島海軍航空隊の滑走台。ここから水上機を湖面に押し出したり、引き上げたりしました。

アジア太平洋戦争開戦後は、水上偵察機や潜水艦の攻撃隊も加わり、本土の防

衛、搭乗員の教育、鹿島灘における対潜作戦を主な任務とし、1000人を超える大規模な基地となっていました。

戦後は東側地区に結核療養のための東京医科大学霞ヶ浦分院、西側地区に国立公害研究所がおかれていました。現在は西側地区に独立行政法人国立環境研究所の施設がおかれています。

### 谷田部海軍航空隊

（所在地：谷田部町等、現つくば市横場・観音台）

1938（昭和13）年12月15日、霞ヶ浦海軍航空隊谷田部分遣隊として開隊。翌年12月1日に独立し、陸上機操縦教育を担当。1945（昭和20）年3月1日付で教育任務を停止、第10航空艦隊に編入され、制空および特攻部隊として実戦配備、戦力化されました。常磐道の側道が戦闘機の滑走路で、研究団地全体が芝張りの飛行場でした。筑波学園病院一体が航空隊本部で、常磐道をまたぐ「飛行場橋」は航空隊本部と飛行場をつなぐ道路でした。

中学45回卒の篠田康氏は、第1海軍航空隊に学徒動員となり、飛行機部に所属していたため、谷田部航空隊に何度か出張し、零戦の特攻機に爆弾を抱える装置を取り付ける爆装工事を行っています。その時の特攻隊員との出会いを「中45 戦いのなかの青春」（平成7年刊）のなかで次のように記しています。

「3度目に（谷田部）航空隊に出張したのは、卒業（1945・昭和20年3月、4年終了にて繰り上げ卒業）して動員が延長になってからだ。青々と伸びた麦が、もう穂が出揃った頃だから5月の末か6月の初めかも知れない。（中略）夕食は、今日も銀メシに豚汁、お酒が一



谷田部神社 ↑  
航空隊内の航空神社を戦後に移築したもの

合、タバコが十本、大福一ヶだが、オカズはポークソテーだったので、またまた大感激でした。豚汁に入っている（豚肉の）細切れでさえ、絶対に手に入らないのに、肉の塊りが食べられるなんて全く夢のようでした。（中略）翌日、爆装工事をしてしていると、飛行服姿の若い中尉がやってきて、『これは私の愛機だ、皆さんご苦労さんシツカリお願いします。これで私もお国のご恩に報いることができます』と笑顔で言うその言葉に、私は何と返事をしていいのか、恐らく22才の若さではないかと思うが、その毅然たる立派な態度に、ただ黙って頭を下げるだけで、頭の中は真っ白になってしまった。すでに食料の配給が実施され、目にするごさえでなくなっていた豪華な夕食（実戦部隊には物資がまだありました）は、育ち盛りの若者にとつて、まさしく夢のような一馳走でした。しかし、いかにお国のためとはいえ、自分たちが整備した零戦で先輩たちが死地に赴く、その言いようのない思いが綴られています。

### 百里原海軍航空隊

（所在地：橋村・白川村、現小美玉市百里）

1938（昭和13）年12月15日、筑波海軍航空隊百里原分遣隊として開隊、翌年12月1日に独立。陸上機操縦教育を担当。1943（昭和18）年の秋に操縦教育を他の航空隊に移管し、実用機の操縦と偵察員の教育を開始しています。1945（昭和20）年からは特攻訓練のみが実施され、3月末から沖縄での特攻作戦に参加しています。現在その一部が航空自衛隊百里基地・茨城空港となっています。

### 北浦海軍航空隊

（所在地：大生原村、現潮来市大生）

鹿島海軍航空隊北浦分遣隊として開隊、1942（昭和17）年4月1日に独立。水上機操縦教育を担当しましたが、1945（昭和20）年5月5日に解隊、北浦航空基地となって訓練基地としての役目を終えています。

### 神ノ池海軍航空隊

（所在地：高松村、現鹿嶋市光）

1944（昭和19）年2月11日に開隊。第11練習連合航空隊に編入されましたが、11月7日、桜花特別攻撃隊第721海軍航空隊（神雷部隊）が百里原から転入したため、12月15日谷田部飛行場に転出しました。神ノ池では1945（昭和20）年1月15日から「桜花」による特攻訓練が開始されました。

### 参考

「阿見と予科練」そして人々のものがたり「阿見町「茨城県の戦争遺跡」伊藤純郎編 平和文化

（高21回 松井泰寿）